

雪

を
読
む

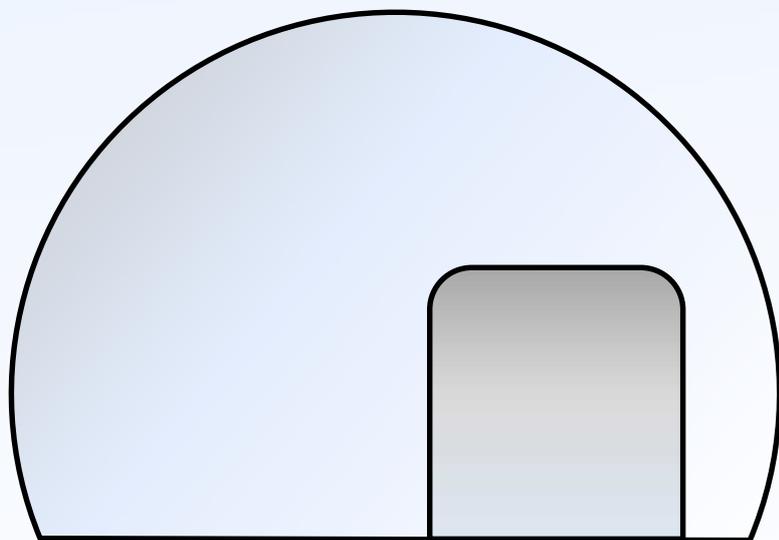


まえがき

寒い寒い、冬がやってきました。猫はこたつで丸くなる時季です。でもただこたつで丸くなっているだけでは暇じゃありませんか？ 積もる雪を窓から眺めながら、こたつの中で本を読むなんていうのも粋なことです。どうでしょうか、たとえばせっかくですから雪の本を読んでみるというのは。

本冊子は雪に関連する、様々な図書をまとめました。ひとえに雪の本といえど、様々な本があるものです。はたして雪とは何なのか、科学的に説明したものであったり、豪雪地帯の人の暮らしについて、民俗学的に説明したものだったり、あるいは雪の降る中で進行する、文学的な物語だってあります。

この冊子を手を取ったあなたに、1冊でも素晴らしいこたつのお供を提供できれば、そう思います。

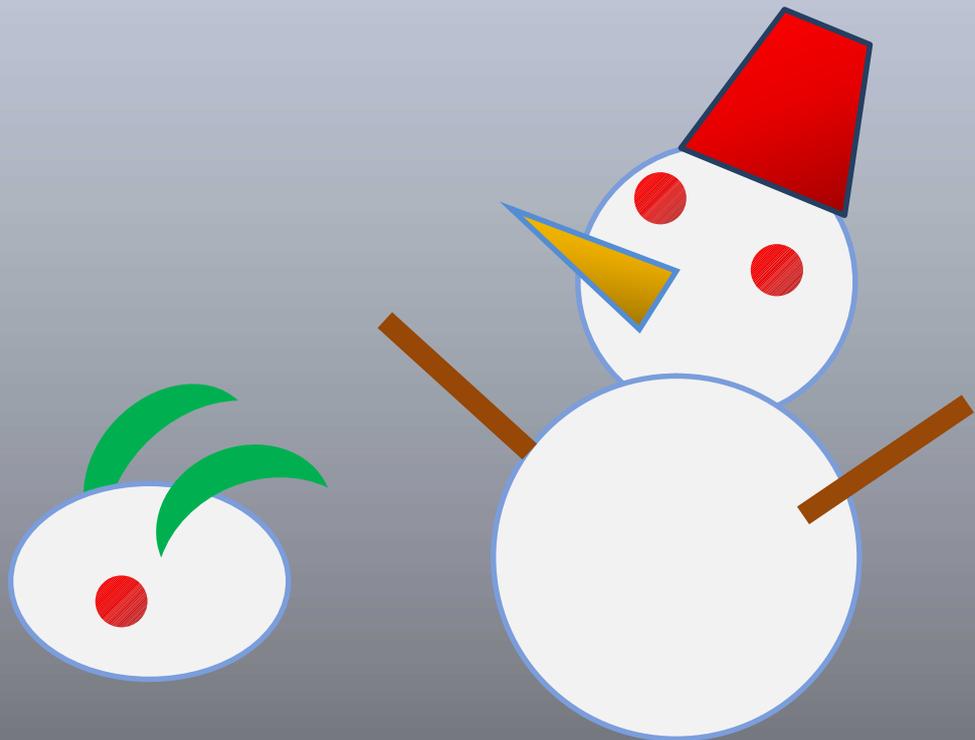


雪とは

ゆき【雪】

気温が摂氏 0 度以下の大気の上層で、雲中の水蒸気が凝結し氷の結晶が集まって地上に降るもの。雪の結晶は雪が雲中でできるときの温度と過飽和度により多様な形をとる。古来、雪月花とたたえられて冬の象徴とされてきた。

『大辞林 第三版』
(大学図・2F 参考 813/135b)



雪ってなんだろう

雪の結晶図鑑 / 菊地勝弘, 梶川正弘著 大学図・1F 開架 (451.6A/Ki24y)

結晶にはどんな種類があるの？どうして結晶ができるの？？そんな疑問を徹底解決！【雪】の専門家が、膨大な写真と研究を基に楽しく解明してくれます。これであなたも今日から雪博士に！美しく神秘的な結晶の世界をお楽しみください！！

自然界の秘められたデザイン：雪の結晶はなぜ六角形なのか？ /

イアン・スチュアート著 大学図・1F 開架 (404A/St5s)

本書は数学の研究者として知られる著者が、「雪の結晶はなぜ六角形なのか」を中心に様々な話題に触れながら、最終的に著者自身の答えを紹介している。内容はやや難しく、すぐに理解することはできないかもしれない。しかし多く掲載された図や写真は読む人を楽しませてくれるはずだ。

雪景色の系譜展：その表現の歩み近世から近代まで /

西宮市大谷記念美術館, 枝松亜子編 大学図・1F 開架, 大学図・書庫 (721A/E21y)

日本美術の中に描かれた雪景色。その雪景色を画題毎に比べ、その系譜を辿る。

雪氷辞典 / 日本雪氷学会編 大学図・2F 参考 (451.6A/N71s)

雪に関する語や物理、化学、気象学、海洋学などの雪と関わりのある語を採用した辞典。

山岳雪崩大全 / 雪氷災害調査チーム編 大学図・1F 開架 (451.6A/Se78s)

なぜ雪崩は起こるのか。雪崩が発生するメカニズムと対処法、巻き込まれた時の処置など分かりやすく解説している。

雪と人と

北越雪譜 / 鈴木牧之編 大学図・書庫 (081.2/33B/181), 大学図・1F 開架 (081.2/33B ア/181)

「雪の為に力を尽くし財を費やし千辛万苦する事、下に説く所を視ておもひはかるべし」
江戸時代後期に出版された随筆集。越後塩沢の商人鈴木牧之が記録した豪雪地帯の人びとの暮らしと習俗、そして風土への科学的考察は二百年の時を隔ててもなお色褪せない。詩情豊かな名文にも惹かれること間違い無し。

カマクラと雪室：その歴史的変遷と地域性 / 後藤麻衣子著

大学図・1F 開架 (382.1A/G72k)

本書はカマクラおよび雪室の歴史的変遷と、それらに深く関連する行事「鳥追い」について、そしてカマクラの果たす役割の変化について、3章に分けて研究を紹介している。著者は人間文化・歴史文化を研究しており、本書もその側面が強く打ち出されている。子供の遊び場としてだけではなく、たくさんのカマクラの姿を知ることができる一冊だ。

雪の民具 / 勝部正郊著 大学図・書庫 (383/71)

10年間の調査に基づき執筆された、雪ぞり引きに関する著作。雪ぞりの構造から、雪国の数少ない収入源であった雪ぞり引きに従事していた人々の暮らしがいかなるものであったのかなど、その詳細が記されている。

雪山川：新潟県北魚沼郡小出郷の暮らし：豪雪地帯の民俗 / 足立区立郷土博物館編

大学図・書庫 (380.21/176)

東京都にある足立区立郷土博物館が、平成9年度の特別展「豪雪地帯の民俗」において、足立区の友好都市である小出町（現魚沼市）の伝統的生活や儀礼を紹介した際の図録。ちなみに幾度か著作が大河ドラマの原作となった作家、山岡荘八はこの小出町の出身である。

雪の物語

雪の色が白いのは：グリムにはないドイツのむかし話 / シャハト・ベルント編
大学図・1F 開架 (388.4/9)

グリム童話は北ドイツの昔話や民話を集めたものとして有名だが、本書は北ドイツに伝わるもグリム童話には収められなかったお話をまとめている。表題作はその名の通り、雪がどうして白いのかを語ってくれる。収録作は、風刺がきいていたり性的なことをほのめかしたり、「大人向けの童話」として楽しめるはずだ。

骨董・怪談 / 小泉八雲著 大学図・1F 開架 (933.6A/H51k)

日本に古くから伝わる怖い話を集めた小泉八雲。本書には 30 以上のお話が収められている。そのなかのひとつ「雪女」は、異類婚姻譚のひとつとしても挙げられる。寒い冬を、きっともっと寒くしてくれること間違いなしの一冊だ。

【新】校本宮澤賢治全集 12 巻 / 宮沢賢治著 大学図・書庫 (910.81/51b(12))

収録されている「雪わたり」は、人間の子ども 2 人ときつねの子ども達との一夜の幻燈会を描いた作品。

アンデルセン童話集：完訳 2, 5 巻 / アンデルセン著
大学図・1F 開架 (081.2/33D ア/127b(2)), (081.2/33D ア/127b(5))

デンマークの童話作家アンデルセンによる創作童話集。第 2 巻に収録されているのは映画「アナと雪の女王」の原作でもあり、多くの作品に影響を与えている「雪の女王」。第 5 巻に収録されている「雪だるま」は「雪の女王」のように有名ではないが、雪だるまがストーブに恋してしまう、溶けるほど心温まるお話だ。

新美南吉童話集 / 新美南吉著
大学図・書庫 (081.2/33C/600), 大学図・1F 開架 (081.2/33C ア/600)

小学校で習う「ごんぎつね」などを収録している。「手袋を買いに」という作品は、冬を舞台にしたきつねの親子のお話。

八甲田山死の彷徨 / 新田次郎著 大学図・1F 開架 (Shincho/に 2/14)

「天はわれ等を見放した。こうなったらゆうべの露営地に引き返して先に死んだ連中と共に全員枕を並べて死のうではないか」

時に明治三十六年、日露戦争前夜の青森に厳寒の八甲田山へ向かった男たちが居た……。陸軍史上最悪の遭難事件を迫真の筆致で描く山岳自然小説。

熊嵐 / 吉村昭著 大学図・1F 開架 (Shincho/よ 5/13), 大学図・書庫 (913.7/701)

「クマの奴は、まだ満足なんかしていない。食いたがっているよ、女の体を……」

大正14年の三毛別熊事件を元にしたドキュメンタリー長編小説。著者の吉村昭氏は学習院大学文芸部のOBでもある。わずか二日間に六人の男女を食らった巨大な熊を前にして、村の人間たちに為す術はない。だがそこに伝説的熊撃ち銀四郎が現れて……？

孤高の人 / 新田次郎著 大学図・1F 開架 (Shincho/に 2/3), (Shincho/に 2/4)

実在した登山家、加藤文太郎をモデルとした小説。加藤の登山に対する精神や登山に捧げた壮絶な人生を題材としている。

劔岳：点の記 / 新田次郎著 大学図・1F 開架 (Bunshun/に 1/34)

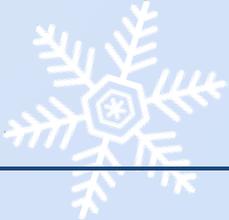
2009年に映画化された新田次郎の小説。日本地図最後の空白地であった劔岳の測量を行う測量隊。任務を行う測量隊の困難と人間同士の関わり合いを描く。

天空の文学史シリーズ「雲・雪・風・雨」 / 鈴木健一編

大学図・1F 開架 (910.2A/Su96k)

雪以外の要素も含んでいるが、古代から近代にかけての気象に関連した文学作品の論考を収録している。

おわりに



卒業式でおなじみの唱歌「蛍の光」の歌詞には雪が登場します。それは「蛍雪の功」の語と同じく、中国の古い図書『晋書』の故事に由来します。晋の時代、官吏を志していた車胤と孫康は、それぞれ夏は蛍の光で、冬は雪の明かりで、本を読み勉学に励んだのだそうです。

東京で雪が降る日はそう多くありませんが、いざ降ると電車や交通網が乱れがちです。そんな時には、室内でゆっくり読書にふけるのも佳いのじゃないでしょうか。そしてその際は、本冊子も参考にして図書を選んでもらえれば幸いです。

『雪を読む』

発行日：2016年12月5日

発行者：学習院大学図書館

担当：学習院大学文芸部

新井雄裕 御地合静

金子馨 葉翼翔

監修：学習院大学図書館情報サービス課 正木

学習院大学図書館 HP 所蔵資料展示紹介ページ

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/exhibition.html>

